

予約型乗合タクシー利用者アンケートの結果について

資料6

1 概要		
	チョイソコおかざき (六ツ美中部学区)	矢作デマンド (矢作地域)
調査目的	デマンド型交通の特性等を把握し、今後の政策の参考とする	
調査実施日	令和5年11月28日(火)～12月11日(月)	
調査対象	1,048人 (10/1時点登録者)	1,812人 (10/1時点登録者)
調査方法	郵送	
回収結果	510票回収 (48.7%)	978票回収 (53.9%)
その他	名城大学 松本研究室と共同実施	

2 結果

(1) 回答者基礎情報

	チョイソコおかざき	矢作デマンド
性別	男性 46.3% 女性 52.4%	男性 43.4% 女性 54.8%
年齢	64歳未満: 16.3% 65～69歳: 15.7% 70～74歳: 14.7% 75～79歳: 23.1% 80～84歳: 16.7% 85歳以上: 12.9% 無回答: 0.6%	64歳未満: 15.7% 65～69歳: 9.9% 70～74歳: 17.2% 75～79歳: 21.9% 80～84歳: 22.5% 85歳以上: 12.3% 無回答: 0.5%
免許	保持して運転している: 77.1% 保持して運転していない: 3.5% 返納した: 10.0% 所持したことがない: 7.8% 無回答: 1.6%	保持して運転している: 57.2% 保持して運転していない: 6.1% 返納した: 17.2% 所持したことがない: 17.9% 無回答: 1.6%

(2) デマンド交通の利用について (※ア～ウについては、デマンド交通利用者のみを集計)

ア 満足度

・各種項目において「満足」、「やや満足」を合わせた割合が、「不満」、「やや不満」を合わせた割合を上回っているが、六ツ美では、運行日、運行時間帯の項目において下回っている。



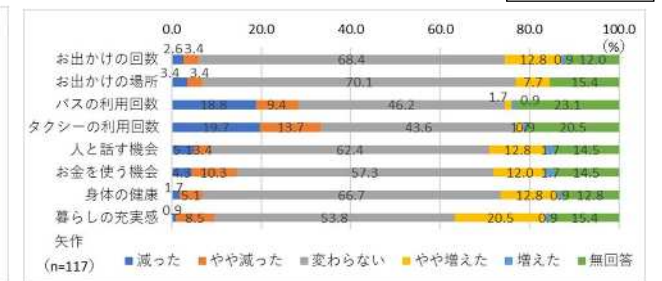
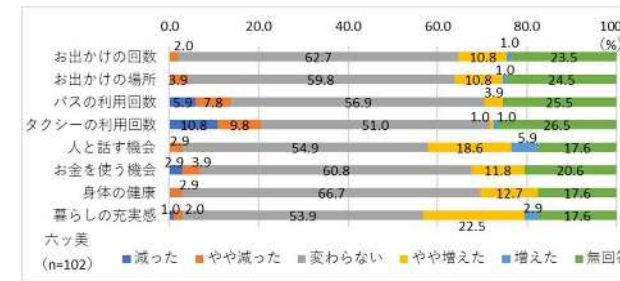
イ デマンド交通と一緒に利用する交通手段

・「デマンド交通のみ」の回答割合が多い。
・公共交通機関である鉄道、バスを併せた利用をしていると回答している割合も一定程度ある。



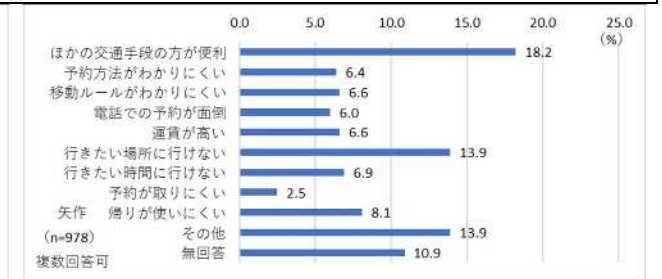
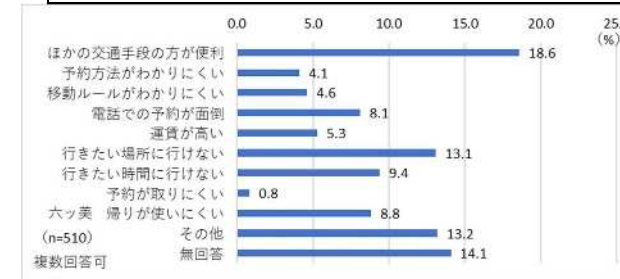
ウ デマンド利用による変化

・暮らしの充実感をはじめとした生活の質に関する項目について、「増えた」、「やや増えた」を合わせた割合が、「減った」、「やや減った」を合わせた割合を上回った。
・バス、タクシーの利用回数の項目において下回っている。



エ デマンド交通の不満点

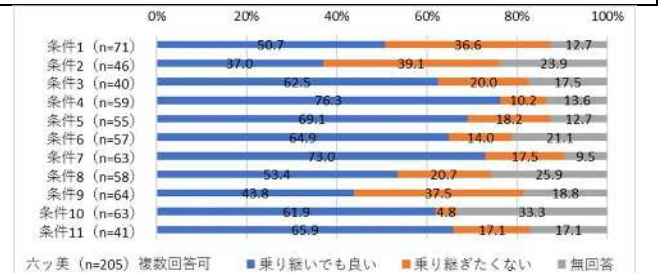
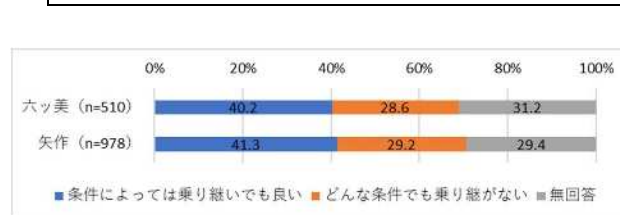
・「ほかの交通手段の方が便利」の回答割合が多く、次いで、「行きたい場所に行けない」である。



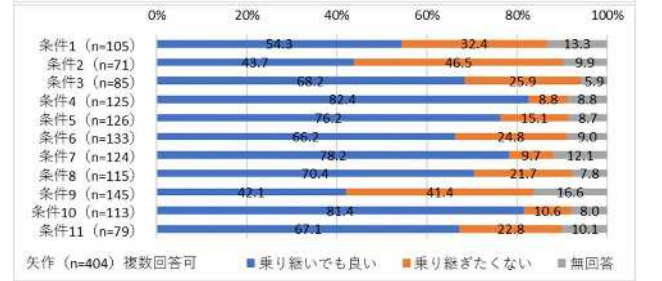
(3) 乗継の受容性について

(※条件別の集計については、「条件によっては乗り継いでも良い」と回答したもののみを抜粋)

・「上屋とベンチがある」「公共施設にあるバス停」「5分」「100円」で「乗り継いでも良い」の条件で、乗り継いでも良いとする回答割合が最も高くなっている。



条件	停留所設備		停留所設置箇所		乗継待ち時間			乗継割引			
	上屋	ベンチ	公共施設	本数の多い拠点	家から乗寄り	5分	10分	20分	0円	100円	200円
条件1	○	○	○					○	○		
条件2				○						○	
条件3			○								○
条件4	○	○						○			
条件5				○							○
条件6											○
条件7	○	○									○
条件8				○							○
条件9	○	○									○
条件10											○
条件11	○	○									○



3 今後の展望

・六ツ美では、運行日時項目において不満度が上回っており、運行日時の変更、削減等の影響なども含め、原因分析に努める必要がある。
・デマンド利用により、生活の質的な面での向上が図られていると考えられる。一方でバス、タクシーの利用回数への影響も考えられるため、引き続き交通モードの選択方法などの分析が必要である。
・不満点より、自家用車等と比較し自由度が低いと感じている方がいると推測される。現在のルールの検証とともに、既存交通の活用等も含めた対応策について研究を進める必要がある。
・乗継は、待ち時間の影響をより高い比率で受けると考えられるため、時間的に自由度が高いデマンド交通により、乗継の抵抗感を減らせることが推測される。よりシームレスな交通ネットワークを目指すため、待合環境や割引制度等の研究に加え、乗継に対する忌避意識の改善も図っていく必要がある。